

平成24年度第2回公立大学法人秋田県立大学経営協議会
議事要旨

1 日時：平成24年10月10日（木）10：00～11：45

2 会場：ホテルメトロポリタン秋田 3階「こまち」

3 出席者

（委員）

石田委員、郷委員、佐々木委員、米田委員、渡邊委員

小間理事長、野田副理事長、小林理事、中村理事、青木理事

（監事）

吉崎監事、前田監事

（事務局）

長谷部次長、佐藤（寧）チームリーダー、舘岡チームリーダー、佐藤（義）チームリーダー（心得）、柴田職員

4 議事

定款の定めにより理事長を議長として会議が開催された。

（1）定款に基づき経営協議会の議を経る必要のある事項について

1）平成23年度業務実績に係る評価結果

2）積立金の処分に係る承認

3）平成24年度予算の補正

4）主な規程の制定・改正

5）職員の採用状況

1）～5）について審議した。

（2）平成24年度第1回経営協議会（H24.6.7）以降の学内外情勢について

1）アクションプラン工程表

2）学長プロジェクト（重点プロジェクト研究）

3）副学部長・副研究科長の設置

4）学長補佐の設置

5）特任教員の選考

6）大学院博士前期・後期課程の選抜状況

7）平成25年3月卒業予定者の就職内定状況

1）～7）について報告を受けた。

ここまですを踏まえ、次のような意見があった。

- 評価が行われること自体は良いことであるが、細かすぎて教員の負担になり、国立大学では研究時間等に影響があるとの声も聞く。国立大学と県立大学の状況が同じとは言えないが、大学の未来を考えると、検討が必要になってくる。
- Bが一つだけで、後はすべてA評価という状況をどう考えるか。段階評価というのは非常に難しい。同じAの中にも幅があるのは当然なので、各人が、目的を持って取り組んでいくしかない。
- 法人化後、業務が増え、教員も事務職員も様々な仕事が求められる中で、特任教員のように、特定の分野に集中して業務を行う人がいるのは、良いアイデアだと考える。
- 学長プロジェクトの目的・取組は、他大学にも参考となる素晴らしい取組。また、原則として会議時間を90分までと決めるのは、時間の劣化を防ぎ、教員の意識を変える上で大変重要なこと。大学全体として、大変ポジティブな方向に向かっていると受け止めた。
- アクションプランの中で、海外でも活躍できる学生の育成に向けて、英語力の強化に取り組むとの記載があるが、高校としても、入学時に大学が求めるラインに達するよう努める。
- 大学院への進学に関連して、昨年度、教員の免許を持っていなくても、博士号取得者を高校教員として採用する制度を実施した。今年度は、その状況を見守っているところ。
- 世界ではもちろん、日本でも女性の力を活かす議論・取組が盛んになっている。そういった情報も、今後、お知らせしたい。

以上